

## 経済産業部

### 「平成15年度物流効率化セミナー」を開催

去る12月9日、沖縄産業支援センターにおいて、中小企業総合事業団との共催による「平成15年度物流効率化セミナー～自社の物流を見直してみませんか／物流効率化の進め方～」を開催しました。

本セミナーは、近年の経済活動のグローバル化、消費者ニーズの多様化等、企業間競争がますます厳しくなっている中で、卸売業者、荷主業者、物流事業者等を対象に物流効率化の必要性和それに対する理解を深めることを目的として行っているものです。



今回のセミナーでは、「管理に役立つコスト算定～物流ABCの活用～」と題して芝田稔子氏〔(株)日通総合研究所〕と、さらに「地に足をつけた物流改革を！～3PL実現への道～」と題して鈴木威雄氏〔(株)富士ロジテック代表取締役社長〕による講演が行われました。

講演会場には、卸売業者等多くの関係者が詰めかけ、参加者からは「今後の社内物流の改革に役立てたい」との意見が述べられるなど、物流効率化への取組に対する感心の高さが伺われました。

## 農林水産部

### 「長寿県沖縄における食品の安全性に関する地域フォーラム」を開催

去る11月11日那覇市内のメルパルク沖縄において「長寿県沖縄における食品の安全性に関する地域フォーラム」が開催されました。

これは、BSEの発生や食品偽装表示等により、食品の安全性や品質に対する消費者の関心が増大している中で、去る7月1日に「食品安全基本法」が施行されたことを踏まえ、食品の安全性に関する施策を総合的に推進する企画の一環として開かれました。

フォーラムでは、内閣府食品安全委員会事務局の藤本一郎勧告広報課長、厚生労働省医薬食品局食品安全部の広瀬誠企画情報課課長補佐及び農林水産省消費・安全局の姫田尚消費者情報官がそれぞれの取組み概要を説明しました。

続いて行われた基調講演では、食品安全委員会の寺尾允男委員長代理が食品の安全性確保のための新たな仕組みについて説明を行いました。



パネルディスカッションでは、尚弘子琉球大学名誉教授をコーディネーターに、東盛キヨ子琉球大学教育学部教授、國永秀樹(株)仲善専務取締役、伊志嶺雅子コープおきなわ副理事長が沖縄独自の食文化の中で長寿社会を築いてきた先人達の知識を引き継いでいくことの重要性等様々な意見を述べ合いました。



## 財務部

### 第19回 財務行政モニター会議を開催

財務部では、去る12月2日、那覇市内において「第19回財務行政モニター会議」を開催しました。

今回は、財務省から「少子・高齢社会における税制のあり方について」、金融庁から「証券市場の構造改革について」の二つのテーマが提示され、それぞれ意見交換を行いました。



この会議は、財務省及び金融庁の施策を中心としたテーマについて、モニターから意見や提言等をいただくことを主な目的として開催しており、当日は県内各界各層から委嘱した5名のモニターが出席しました。

会議の冒頭、坂本財務部長から今回テーマについての概要が説明され、続いてモニターの方々からテーマに関する意見が出されました。

今回は会議に先立ち、モニターの方々にテーマの事前説明を行ったこともあって、会議当初から活発な意見が出され、和やかな中にもモニターの方々が日頃感じている問題点や改善点など、数多くの意見や提言をいただき、有意義な会議となりました。

モニターからいただいた意見等は、財務省に報告し、今後の施策等に活用されることになります。

## 運輸部

## 平成15年度 年末年始の輸送等に関する安全総点検（海上交通機関関係）の実施

海上交通機関に人流・物流が集中する年末年始は、万が一事故等が発生した場合、大きな被害に及ぶことが予想されます。

このため、自主点検等を通じた安全性の向上を図るとともに、安全輸送等に対する意識の高揚を図るため、年末年始の輸送等に関する安全総点検を平成15年12月10日～平成16年1月9日まで実施しました。

今年度は、①船舶操船等の際の飲酒、居眠りの防止 ②事故等発生時における乗客等の安全確保 ③テロ防止のための警戒態勢及び発生時の通報・連絡・指示体制等の整備状況を重点的に点検しました。

具体的には発航前検査、船内巡視、操練等の実施状況、救命設備、消防設備等の整備状況、運航管理規程の遵守状況等の点検を行いました。

点検において発見された不備事項については、早急な改善を指示・指導しました。



操船性能各航海計器の点検



機関室における計器類の点検

## 開発建設部

第12回「沖縄の道路」  
写真コンテスト表彰式を開催

「沖縄の道路」写真コンテストは、道路の果たすいろいろな役割を県民の皆様に理解して頂き、併せて道路愛護思想の普及を図ることを目的に、沖縄総合事務局開発建設部が主催し、平成4年度に第1回コンテストを実施し、今回で第12回を迎え、応募者も第1回は30名74作品でしたが、今回は186名390作品の応募がありました。

去る10月15日に沖縄県写真協会会長外7名の審査員による審査会が行われ、厳正な審査の結果、最優秀・優秀・佳作などの入賞作品25点を選出しました。



そのうち佳作以上の12作品は2004年道路カレンダーの各月を飾り掲載されています。

表彰式は、当局山口修次長をはじめ、佳作以上の入賞者及び審査員など関係者が出席し、11月19日にかりゆしアーバンリゾート那覇において開催され、山口次長の主催者挨拶の後、入賞者へ表彰状及び記念品が授与され、続いて沖縄県写真協会の安里盛昭会長より作品1点毎に写真の構図や露出など詳細な講評が行われ、入賞者をはじめ参加者全員が熱心に聞き入っていました。

また、表彰式終了後、県庁1階（12/1～12/5）、道の駅許田（12/8～12/12）において入賞作品展示会も開催されました。

## 「多自然型川づくりに関する技術研究発表会及び講演会」の開催

去る10月19日に沖縄玉水ネットワーク、沖縄県との共催によりJA宜野湾市会館第1研修室において「多自然型川づくりに関する技術研究発表会及び講演会」を開催しました。

当日の聴講者は行政関係者を始め河川NPOや民間の土木関係技術者等で総勢約150名の参加がありました。



講演会では、国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所の島谷所長から多自然川づくりを進める上での留意点や市民・行政側の心構え等の講演や沖縄玉水ネットワーク副代表の寺田麗子氏からは「循環型社会の海外事例報告」として、キューバやスウェーデンでの先進的事例の紹介がありました。また、講演会に先立ち行政関係者の技術力向上等を目的とした研究発表会も実施し、沖縄県の河川技術者の研究2題の発表も行いました。

会場からは多くの質疑があり、河川環境への関心の高さが窺われ、また、河川NPOからも行政だけではなく市民レベルでも川づくりに積極的に関わって行きたいという意見等も出されました。

今後もこのような企画を継続していき、沖縄県内の川が自然豊かで親しめる川となるよう市民・行政一体となって取り組んでいきたいと考えています。